



林家住宅

織物工場の多い東地区、日限地蔵で有名な観音院の南側に位置する林家は三代にわたり織物業を営み、風格のある住宅は工場の母屋として、また事務所や寄宿舍として使われてきた。

現当主・林敏弘氏の祖父久雄氏は明治の中頃、長野から織物を学びに桐生の地を踏み、森山芳平氏の門を叩いた。幾多の人材を輩出した歴史ある工場です。技術を磨き、芳平氏の娘さんと結ばれて独立したのが林織物の創業である。

羽二重をはじめ一貫して輸出織物を生産、従業員を30人以上抱え、ノコギリ屋根やマンサード屋根の工場が軒を連ねた。昭和53年に操業を停止し工場は解体されたが、母屋をはじめとする居住部分は大切に伝えてきた。

旧寄宿舍と居間とを結ぶ土間と事務所の傷みが激しくなり、リニューアルに取り組んだのが平成20年の秋。解体も検討したが、互いに支えあう建物構造でもあり、手探りの改修が始まった。約10ヶ月をかけて、馴染みの建設業者と孝子夫人とが知恵を出し、感性を競い、徹底した古材の再利用で魅力的な古民家風空間を創り上げた。土壁の中の竹材を磨き上げ随所に活用、畳の下板も洗い出し壁板に、古い桐箆筥はお洒落なインテリア家具に変身させるなど、眼を見張る工夫が施され、明治の建物が甦った。

居住者自らの手で、愛着のある建物を見事に改修した好例であり、桐生にもっと増えて欲しい風景である。



所在地 桐生市東2-12-24
所有者 林 敏弘